

# 心こそ神への近道



栃木県神社総代連合会

会長 塚本 美代次

吉田神道の吉田兼俱先生の神道大意の中にある一節に、心にひびく言葉があります。「心は即ち神明の舍、形は天地と同根なり」であります。古事記にアメノミナカヌシの神とタカミムスビの神、カミムスビの神の造化三神が天地を造り地球を造りあげたと書かれてあります。この尊い御三神は形もなく姿も見えない「無」の偉大なる神であると言われておりますが、地球

に存在する総てのものに御神霊が宿り、宇宙の中の地球の安全をお護りしていることを考えた時に、私共は「無」の御神霊の偉大さを理解しなければならぬと思います。

この御神霊と結びついている人間の心は、常に平和と発展のために努力して人類を幸福にすることが本質であると考えられるのであります。心の持ち方によってその人の人生を良い方に

導いてゆくことが出来るものと信じます。

神道は天地悠久の大道であると言うことは、神の導きに心から感謝して、至誠と奉仕の精神をもって平和への貢献が最も大切であると思います。この崇高な心の原点に立ちかえって、努力していくことが理想的な社会をつくりあげて行くものであると信じるのであります。

然るに現在の社会情勢をふり返った時に、偏向教育の弊害から純粋な子供達の心をむしばんで凶悪な犯罪が行われていることを見た時に、神道の教えの尊さを痛感させられるのであります。

神道は昔から言挙げせぬという言葉がありますが、終戦後は神道指令等により神社界の構造も大きく変化して来ております。

又、国民の心の持ち方や経済界に於ける国際化の中で大きな転換期を迎えているのではないかと思われます。このような社会情勢の中で神道が我々の心の中に存在し、神社を中心として、地域の融和と発展をしてきた時代の神道の本質を知らしめる為と言挙げしていくことが最も重要であると痛感しているのであります。

我が国にとって危険な状態は、北朝鮮の核開発の問題等、身近にせまっております。幾多の国難を乗り越えてきた祖先の英断を考えた時に永い間の国の伝統を思いおこして、積極的に神道の教えを理解させていくことが私共の務めであると思致します。

益々の御健勝と御活躍を御祈念申し上げ挨拶と致します。